

編集後記

日建連主催の見学会で、例を挙げながら私たちの周りに建設業がつくっているものがたくさんあることを説明すると、参加者は一様に驚いた顔をします。日常生活に欠かせないインフラの整備に建設業が携わっていることは、残念ながらまだまだ一般の方に知られていないのが現状です。

PR 下手と言われて久しい建設業界ですが、最近は施工者だけでなく、発注者も積極的に情報発信に努めています。現場は日々進行する生き物。“今日しか見られない景色”を見に、是非現場見学にいらしてください。(I)

今号の特集のハッ場ダムの取材では、一般の方の見学ツアーに同伴しました。馴染みのないヘルメットを被る際、緊張感からか少し硬くなる表情、堤体のスケールの大きさに目を丸くして食い入るように見続ける参加者の姿が印象的で、私が初めて現場に入った時の高揚感をふと思い出してしまいました。ものづくりに興味関心がある人だけでなく、老若男女問わず人を惹きつける魅力が現場にはあると強く実感した取材となりました。(M)

発行 一般社団法人 日本建設業連合会
 〒104-0032
 東京都中央区八丁堀2-5-1
 東京建設会館
 TEL 03-3553-4095
 FAX 03-3551-4954
 URL <http://www.nikkenren.com/>

発行者 山本徳治
 企画・編集 一般社団法人 日本建設業連合会
 広報委員会
 制作 株式会社Kプロビジョン
 デザイン 株式会社コンセント
 印刷 株式会社耕文社

©2018 日本建設業連合会
 「ACe建設業界」は日本建設業連合会の登録商標です

年間購読料：4,800円(送料込)

『施工BIMのスタイル
 事例集2018』を発行



日建連・建築生産委員会（^{つただ} 篤田守弘委員長 [株] 鴻池組社長）はこのたび、『施工BIMのスタイル 事例集2018』（無料）を発行しました。

本事例集は、BIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）を施工で活用する「施工BIM」のノウハウを水平展開することを目的に、建築生産委員会IT推進部会BIM専門部会傘下の専門工事会社BIM連携ワーキンググループ（WG）が、建築本部委員会に所属している会員企業64社と過去にBIM連携WG主催の意見交換会に参加した専門工事会社28社を対象に昨年10～11月にかけて行った施工BIMの動向に関する調査結果と事例を取りまとめたものです。

調査結果によると、会員企業64社のうち67%が施工BIMの導入に取り組んでいることがわかりました。また、以前は図面を作ってから3DのBIMモデルを立ち上げる「図面先行型」が多かったが、今回の調査では「BIM先行型」が増えているのも特徴です。各社の施工BIM事例を見てみると、プロジェクト関係者間での合意形成や干渉チェック・収まりの確認、施工性検討などにBIMが大きな力を発揮していることがわかります。元請と専門工事会社が連携する事例は、前回2016年の調査から25ポイント増の約95%に増え、両者の連携も深まっているのが読み取れます。

専門部会では今後、2020年夏ごろを目途に『改訂版 施工BIMのスタイル2020』と会員企業の最新取り組み事例を紹介する『事例集2020』を発行する予定です。

■ 本件の問い合わせ先

日建連 建築部 TEL：03-3551-1118

※日建連ホームページからダウンロードしていただけます。

URL：<https://www.nikkenren.com/kenchiku/bim/zuhan.html>

お
知
ら
せ